

11 有限会社アグリ:サポート 代表取締役 立松 國彦 (愛知県海部郡飛島村)

たてまつ くにひこ

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
もみゆたか	約8.8ha	739kg/10a	226kg/10a(513kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 法人経営(40人雇用うち正社員21人、パート12人、実習生7人)平成10年設立
- 地域の耕地の集積を進めており、水稻を中心に麦、大豆、野菜を作付けしている。

【作付品目】

- 主食用米 コシヒカリ、あいちのかおり 20.0ha
- 飼料用米 もみゆたか 8.8ha
- 酒米 1.0ha ○小麦 34ha ○大豆 20ha
- 野菜 25ha ○ミニトマト(施設) 0.6ha

【取組のきっかけ】

- 飼料用米は、主食用米と作期分散できることや、麦・大豆との輪作で多収が期待でき、規模拡大や経営の安定化が図られることから、平成27年から取組を開始した。

【取組概要】

- 愛知県が開発した多収性品種であり、この地方の気候風土に適している「もみゆたか」を作付け。令和3年産は、天候に恵まれたことに加え、水管理を見直し、例年より15日長くしたことが、多収につながったと感じている。
- 多収化のための肥培管理は、①土壌改良剤(鶏ふん 150kg/10a、卵かく 500kg/10a)、②基肥(側条エース中生用((24-13-10) 50kg/10a)、追肥(NKエース(16-0-10) 10kg/10a(7月、9月))を使用。特に、倒伏防止、収量増加のため、適切な時期(田植後1ヵ月)に追肥(根肥)を散布する事を重視している。鶏ふんは、安価なフレコン詰め物、卵かくは、本来、廃棄となるものを安価に入手して活用し、コスト低減につなげている。
- コスト低減の取り組みとして、①苗箱1枚当たりの種子量を増やし(260g/箱 慣行200g/箱)苗箱の枚数を削減、②田植と同時に基肥、除草剤を散布することでコスト低減や初期成育の向上を図り、③自動運転機能搭載の田植機を使用し作業効率を高めている。今後は、ドローンの活用等さらなるスマート農業への取組を進め、より効率的な経営を目指していきたい。
- 稲・麦・大豆の2年3作輪作を行うことで、農地の有効活用や、地力の維持・向上につながり、飼料用米の多収化、田畑転換により漏生稲のコンタミや雑草の省力的な抑制、連作障害の回避により麦・大豆の収量向上といった効果を実感している。
- 地域の農地を維持していくため、農地中間管理機構を活用しながら毎年2~3ha規模拡大しており、水田50ha程度までの拡大を考えている。

